

平成 27 年度 地域活性化総合特別区域評価書【正】

作成主体の名称：広島県

1 地域活性化総合特別区域の名称

尾道地域医療連携推進特区

2 総合特区計画の状況

① 総合特区計画の概要

全国的な課題となっている高齢社会に対応した最適な医療・介護サービスの提供体制の構築を図り、当該地域で実践している多職種協働をより発展させるため、ICTによる医療・介護・福祉連携ネットワーク基盤を整備するとともに、規制の特例措置も視野に入れた、ICTを活用した遠隔診療、遠隔服薬指導のモデル事業に取り組む。

② 総合特区計画の目指す目標

- ICTを活用した発展的な地域医療・介護連携による在宅医療等の充実・強化
- ・ ICTによる医療・介護連携ネットワーク基盤の拡大（医療・介護情報の蓄積と共有化の推進）
- ・ 遠隔診療・遠隔服薬指導による離島等での在宅ケアの充実強化

③ 総合特区計画の指定時期及び認定時期

平成 23 年 12 月 22 日指定

平成 24 年 3 月 9 日認定

3 目標に向けた取組の進捗に関する評価（別紙 1）

① 評価指標及び留保条件

評価指標（1）：当該地域における急性期病院、一般病院、診療所、薬局及び介護事業施設等の ICT 基盤整備率[進捗度 50%]

数値目標（1）：17%（平成 23 年 9 月現在）→50%（平成 27 年度末）

[平成 27 年度目標値 50%、平成 27 年度実績値 28%、進捗度 50%]

評価指標（2）：急性期病院の退院患者平均在院日数の縮減、及び患者紹介率・逆紹介率の向上<尾道市内の 2 つの急性期病院を対象>

[進捗度 121%]

数値目標（2）－①：JA 尾道総合病院における平均在院日数の縮減

[進捗度 109%、寄与度 33%]

12.3 日（平成 22 年）→12 日以下（平成 27 年）

[平成 27 年目標値 12 日以下、平成 27 年実績値：10.5 日、進捗度 114%、寄与度 16%]

尾道市立市民病院における平均在院日数の縮減

15.7日（平成22年）→15日以下（平成27年）

[平成27年度目標値15日以下、平成27年度実績値：14.5日、進捗度103%、寄与度16%]

数値目標（2）－②：JA尾道総合病院における患者紹介率の向上

[進捗度100%、寄与度33%]

64.8%（平成21年度）→現状値以上（平成27年度）

[平成27年度目標値64.8%、平成27年度実績値：74.7%、進捗度115%、寄与度16%]

尾道市立市民病院における患者紹介率の向上

67.0%（平成21年度）→現状値以上（平成27年度）

[平成27年度目標値67.0%、平成27年度実績値：56.9%、進捗度85%、寄与度16%]

数値目標（2）－③：JA尾道総合病院における患者逆紹介率の向上

[進捗度154%、寄与度33%]

80.6%（平成21年度）→現状値以上（平成27年度）

[平成27年度目標値80.6%、平成27年度実績値：107.2%、進捗度133%、寄与度16%]

尾道市立市民病院における患者紹介率の向上

47.3%（平成21年度）→現状値以上（平成27年度）

[平成27年度目標値47.3%、平成27年度実績値：82.9%、進捗度175%、寄与度16%]

②寄与度の考え方

該当なし

③総合特区として実現しようとする目標（数値目標を含む）の達成に、特区で実施する各事業が連携することにより与える効果及び道筋

当該地域で実践している多職種間（在宅主治医をはじめ、急性期病院、他の一般病院や診療所の医師、薬剤師、ケアマネージャー、民生委員など、医療・介護・福祉関係者）での連携ネットワークをより発展させるため、地域の中核病院を情報提供機関と位置づけ、医療・介護間でICT基盤の整備等を推進することにより、医療・介護情報の共有化を図る。

また、規制の特例措置の活用を視野に入れつつ、遠隔診療や遠隔服薬指導のモデル事業を実施し、在宅患者や家族の安心感を高める。

④目標達成に向けた実施スケジュール（別紙1-2）

ネットワーク基盤の整備については、平成27年度末において、全体として約250施設での運用を目指していたが、平成27年度末の時点では126施設であった。今後も、ネットワーク整備・拡大に向けて事業の企画・運営母体である特定非営利活動法人「天かける」とも連携しつつ、進めていく。

4 規制の特例措置を活用した事業等の実績及び自己評価（別紙2）

（該当なし）

5 財政・税制・金融支援の活用実績及び自己評価（別紙3）

財政支援：特定地域活性化事業

地域医療・介護連携推進事業（総務省・健康情報活用基盤構築事業）

平成23年度に財政支援（142,742千円，うち特区推進費99,742千円）を受けたことにより，平成24年度，尾道市立市民病院のICT整備を予定通り実施できた。

税制支援：（該当なし）

金融支援（利子補給金）：0件

事業者（急性期病院等）負担の軽減に効果が見込まれていたが，利用には至らなかった。

6 地域独自の取組の状況及び自己評価（別紙4）

地域独自の取組により，平成27年度末におけるネットワーク参加医療機関数は126施設（当初70施設），ICTネットワークへの同意取得患者数は，2つの急性期病院の合計で約12,500人（当初300人）となっている。

（地域における財政・税制・金融上の支援措置、規制緩和・強化等、体制強化、関連する民間の取組等）

- ・ 地域における財政上の支援措置：ICTを活用した在宅医療等支援モデル事業（平成24年度～平成25年度）

将来的な規制緩和に備え，離島や中山間地域を中心として，在宅の慢性疾患患者に対して，対面による往診や服薬指導を補完するため，

- ① 情報通信技術を活用した診療（遠隔診療）
- ② 情報通信技術を活用した服薬管理指導

を実施

※ 平成24年度実施状況 参加機関：7機関（2診療所，5薬局），参加患者：84人

※ 平成25年度実施状況 参加機関：17機関（9診療所等，8薬局），参加患者：107人

また，特区事業の評価分析に係る経費として，4,170千円を措置した。

- ・ 体制強化：平成22年12月に広島県総務局に総合特区計画プロジェクト・チームを設置。また，庁内関係局との連携推進会議を設置し，特区計画事業の円滑な実施及び事業評価・分析など計画の推進に向け，積極的に取り組んだ。
- ・ 関連する民間の取組：
 - ① 地域医療・介護連携を推進するため，尾道市医師会役員，JA尾道総合病院長（当時）等を理事とする特定非営利活動法人「天かける」を設立。（平成23年3月県知事認証）
 - ② ICTネットワーク整備の円滑な取組を推進するため，尾道市医師会において新たに特区担当の理事を配置した（平成24年4月）

7 総合評価

当初予定していた事業について一定の成果があり，平成27年度末をもって計画期間が終了するために，平成28年4月1日付で総合特別区域計画の認定取消し及び総合特別区域の

指定解除がなされた。

評価指標（１）に掲げる「当該地域における急性期病院，一般病院，診療所，薬局及び介護事業施設等のＩＣＴ基盤整備率」については，一定数以上の施設の整備が進まず，目標数を達成することができなかったが，評価指標（２）に掲げる「急性期病院の退院患者平均在院日数の縮減，及び患者紹介率・逆紹介率の向上」については，これまでの取り組みの効果もあり，概ね目標を達成することができた。

また，指標には表れないが，ＩＣＴネットワークへの患者登録者数においても，平成 23 年度末の 300 人から平成 27 年度末時点では 12,500 人と拡大するなど，多職種間での医療・介護連携ネットワークの定着に向けた成果として表れている。

引き続き，ネットワークの拡大を図るとともに，これまで構築したネットワークの内容についても充実が図られるよう，検討を進めていく。

なお，ＩＣＴを積極的に活用した遠隔診療及び服薬指導モデル事業の充実については，今後も関係者が主体となった事業を継続していく予定であることから，国家戦略特区において継続した取り組みを推進する。

■目標に向けた取組の進捗に関する評価

		当初(平成23年度)	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
評価指標(1) 当該地域における急性期病院, 一般病院, 診療所, 薬局及び介護事業施設等のICT基盤整備率	数値目標(1) 17%(平成23年9月現在) →50%(平成27年度末)	目標値	35%	46%	50%	50%	-
		実績値	17%	29%	27%	28%	
	寄与度(※):100(%)	進捗度(%)	81%	58%	51%	50%	
	代替指標の考え方または定性的評価 ※数値目標の実績に代えて代替指標または定性的な評価を用いる場合		代替指標は使用しない。				
目標達成の考え方及び目標達成に向けた主な取組、関連事業		<p>当該地域で実践している多職種間(在宅主治医をはじめ, 急性期病院, 他の一般病院や診療所の医師, 薬剤師, ケアマネージャー, 民生委員など, 医療・介護・福祉関係者)での連携ネットワークをより発展させるため, 地域の中核病院を情報提供機関と位置づけ, 医療・介護情報の共有化を図ることを目的とし, 施設等のICT基盤整備250施設を目指す。</p> <p>主な取組として、次の事業に取り組む。</p> <p>○地域医療・介護連携事業・・・急性期病院, 一般病院, 診療所, 薬局及び介護事業施設等のICT基盤整備</p> <p>○ICTを活用した在宅医療等支援モデル事業・・・遠隔診療, 遠隔服薬指導のモデル事業の実施</p>					
各年度の目標設定の考え方や数値の根拠等 ※定性的評価の場合は、数値の根拠に代えて計画の進行管理の方法等		<p>平成23年度:・ICTネットワーク基盤ネットワーク拡大に伴う対象施設の選定・意向調査等の実施</p> <p>・システム整備に係る企画・設計の検討</p> <p>平成24年度以降:順次, 医療機関, 薬局, 介護保険事業者間のネットワーク整備・拡大に着手</p> <p>平成24年度:ネットワーク基盤の整備を希望する対象施設のうち, 約90施設間(全体として約160施設)でのネットワークを整備</p> <p>平成25年度:ネットワーク基盤の整備を希望する対象施設のうち, 約50施設間(全体として約210施設)でのネットワークを整備</p> <p>平成26年度:ネットワーク基盤の整備を希望する対象施設のうち, 約40施設間(全体として約250施設)でのネットワークを整備</p> <p>平成27年度:ネットワーク基盤の整備を希望する対象施設のうち, 全体として約250施設でのネットワークを維持</p>					
進捗状況に係る自己評価(進捗が遅れている場合は要因分析)及び次年度以降の取組の方向性		<p>総合特区推進調整費の活用もあり, 尾道市立市民病院のICT基盤の整備等を推進したものの, 平成27年度末におけるネットワーク参加医療機関数は126施設(平成23年6月スタート当初:70施設)であり, 今年度の目標値を達成するまで至らなかった。参加のみで, 形骸化していた施設の脱退などが要因の一つと考えられる。</p> <p>一方, ICTネットワークへの同意取得患者数は, 介護施設のコンスタントな利用もあり, 12,500人(平成23年6月スタート当初:300人)となっていることなどから, 特区の定性的目標である「ICTを活用した在宅医療等の充実・強化」に向けて, 着実に成果が得られていると考えている。今後もネットワークの整備拡大ならびに運用面での充実・強化を図っていくこととする。</p>					
外部要因等特記事項							

※寄与度:一つの評価指標に対して複数の数値目標がある場合、それぞれの数値目標が評価指標に与える寄与度を記入してください。

■目標に向けた取組の進捗に関する評価

		当初(平成23年度)	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
急性期病院の退院患者平均在院日数の縮減、及び患者紹介率・逆紹介率の向上	数値目標(2)－① JA尾道総合病院における平均在院日数の縮減 12.3日(平成22年) →12日以下(平成27年) 尾道市立市民病院における平均在院日数の縮減 15.7日(平成22年) →15日以下(平成27年)	目標値	平成21・22年数値より向上 (12日以下:JA尾道) (15日以下:尾道市立)	平成21・22年数値より向上 (12日以下:JA尾道) (15日以下:尾道市立)	平成21・22年数値より向上 (12日以下:JA尾道) (15日以下:尾道市立)	平成21・22年数値より向上 (12日以下:JA尾道) (15日以下:尾道市立)	-
		実績値	平均在院日数:11.9日(JA尾道)	平均在院日数:12.3日(JA尾道)	平均在院日数:11.8日(JA尾道) 15.0日(尾道市立)	平均在院日数:11.3日(JA尾道) 14.2日(尾道市立)	平均在院日数:10.5日(JA尾道) 14.5日(尾道市立)
	寄与度(※):33(%)	進捗度(%)		98%	101%	106%	109%
	評価指標(2)	代替指標の考え方または定性的評価 ※数値目標の実績に代えて代替指標または定性的な評価を用いる場合	代替指標は使用しない。				
	目標達成の考え方及び目標達成に向けた主な取組、関連事業	当該地域で実践している多職種間での連携ネットワークをより発展させるため、医療・介護間でICT基盤の整備等を推進していく。また、規制の特例措置を活用し、遠隔診療や遠隔服薬指導のモデル事業を実施し、在宅患者や家族の安心感を高める。 主な取組として、次の事業に取り組んだ。 ○当該地域内での医療・介護間におけるネットワーク整備率を高めることで、急性期病院から在宅期への円滑な移行を進めることで、在院日数の縮減に努める。					
	各年度の目標設定の考え方や数値の根拠等 ※定性的評価の場合は、数値の根拠に代えて計画の進行管理の方法等	○ICT地域医療連携の推進により、当該地域の主な急性期病院における退院患者の平均在院日数の縮減や紹介率等の向上に寄与した。 ○数値については、概ねネットワークが整備される平成27年度末を基準に、上記の実績数値を上回ることを目標にしている。 ※なお、ICT基盤を随時整備することから、ただちに、年度間毎の目標数値を設定することは困難であるため、基準実績値の向上を目安としている。 ○総合特区の目標として、継続的な医療・介護サービスが提供できる体制整備を目指すものであるため、現状値の向上としているところである。					
	進捗状況に係る自己評価(進捗が遅れている場合は要因分析)及び次年度以降の取組の方向性	概ね計画どおり取組が進捗した。引き続きネットワークの整備拡大ならびに運用面での充実・強化を図っていくこととする。					
	外部要因等特記事項						

※寄与度:一つの評価指標に対して複数の数値目標がある場合、それぞれの数値目標が評価指標に与える寄与度を記入してください。

■目標に向けた取組の進捗に関する評価

		当初(平成23年度)	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
急性期病院の退院患者平均在院日数の縮減、及び患者紹介率・逆紹介率の向上	数値目標標(2)－② JA尾道総合病院における患者紹介率の向上 64.8%(平成21年度) →現状値以上(平成27年度) 尾道市立市民病院における患者紹介率の向上 67.0%(平成21年度) →現状値以上(平成27年度)	目標値	平成21・22年数値 (64.8%:JA尾道, 67.0%:尾道市立) より向上	平成21・22年数値 (64.8%:JA尾道, 67.0%:尾道市立) より向上	平成21・22年数値 (64.8%:JA尾道, 67.0%:尾道市立) より向上	平成21・22年数値 (64.8%:JA尾道, 67.0%:尾道市立) より向上	-
		実績値	紹介率: 74.1%(JA尾道)	紹介率: 79.9%(JA尾道)	紹介率: 83.4%(JA尾道) 62.9%(尾道市立)	紹介率: 79.0%(JA尾道) 54.4%(尾道市立)	紹介率数: 74.7%(JA尾道) 56.9%(尾道市立)
	寄与度(※):33(%)	進捗度(%)		123%	112%	102%	100%
	代替指標の考え方や定性的評価 ※数値目標の実績に代えて代替指標または定性的な評価を用いる場合	代替指標は使用しない。 ※平成25年度までの紹介率=(紹介患者数+救急患者数)÷急性期病院の初診患者総数 ※平成26年度以降の紹介率=紹介患者数÷急性期病院の初診患者総数					
目標達成の考え方及び目標達成に向けた主な取組、関連事業	当該地域で実践している多職種間での連携ネットワークをより発展させるため、医療・介護間でICT基盤の整備等を推進していく。また、規制の特例措置を活用し、遠隔診療や遠隔服薬指導のモデル事業を実施し、在宅患者や家族の安心感を高める。 主な取組として、次の事業に取り組む。 ○当該地域内での医療・介護間におけるネットワーク整備率を高めることで、急性期病院から在宅期への円滑な移行を進めることで、在院日数の縮減に努める。						
各年度の目標設定の考え方や数値の根拠等 ※定性的評価の場合は、数値の根拠に代えて計画の進行管理の方法等	○ICT地域医療連携の推進により、当該地域の主な急性期病院における退院患者の平均在院日数の縮減や紹介率等の向上に寄与した。 ○数値については、概ねネットワークが整備される平成27年度末を基準に、上記の実績数値を上回ることを目標にしている。 ※なお、ICT基盤を随時整備することから、ただちに、年度間毎の目標数値を設定することは困難であるため、基準実績値の向上を目安としている。 ○総合特区の目標として、継続的な医療・介護サービスが提供できる体制整備を目指すものであるため、現状値の向上としているところである。						
進捗状況に係る自己評価(進捗が遅れている場合は要因分析)及び次年度以降の取組の方向性	概ね計画どおり取組が進捗した。引き続きネットワークの整備拡大ならびに運用面での充実・強化を図っていくこととする。						
外部要因等特記事項							

※寄与度:一つの評価指標に対して複数の数値目標がある場合、それぞれの数値目標が評価指標に与える寄与度を記入してください。

■目標に向けた取組の進捗に関する評価

		当初(平成23年度)	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
急性期病院の退院患者平均在院日数の縮減、及び患者紹介率・逆紹介率の向上	数値目標(2)－③ JA尾道総合病院における患者逆紹介率の向上 80.6%(平成21年度) →現状値以上(平成27年度)	目標値	/	平成21・22年数値 (80.6%:JA尾道, 47.3%:尾道市立) より向上	平成21・22年数値 (80.6%:JA尾道, 47.3%:尾道市立) より向上	平成21・22年数値 (80.6%:JA尾道, 47.3%:尾道市立) より向上	平成21・22年数値 (80.6%:JA尾道, 47.3%:尾道市立) より向上	
	尾道市立市民病院における患者紹介率の向上 47.3%(平成21年度) →現状値以上(平成27年度)			実績値	逆紹介率:77.3%(JA尾道)	逆紹介率: 80.2%(JA尾道) 59.0%(尾道市立)	逆紹介率: 103.4%(JA尾道) 73.0%(尾道市立)	逆紹介率: 107.2%(JA尾道) 82.9%(尾道市立)
	寄与度(※):33(%)	進捗度(%)	/	93%	113%	141%	154%	/
	代替指標の考え方や定性的評価 ※数値目標の実績に代えて代替指標または定性的な評価を用いる場合	代替指標は使用しない。 ※逆紹介率＝他病院・診療所に紹介した患者数÷急性期病院の初診患者数						
目標達成の考え方及び目標達成に向けた主な取組、関連事業	当該地域で実践している多職種間での連携ネットワークをより発展させるため、医療・介護間でICT基盤の整備等を推進していく。また、規制の特例措置を活用し、遠隔診療や遠隔服薬指導のモデル事業を実施し、在宅患者や家族の安心感を高める。 主な取組として、次の事業に取り組む。 ○当該地域内での医療・介護間におけるネットワーク整備率を高めることで、急性期病院から在宅期への円滑な移行を進めることで、在院日数の縮減に努める。							
各年度の目標設定の考え方や数値の根拠等 ※定性的評価の場合は、数値の根拠に代えて計画の進行管理の方法等	○ICT地域医療連携の推進により、当該地域の主な急性期病院における退院患者の平均在院日数の縮減や紹介率等の向上に寄与した。 ○数値については、概ねネットワークが整備される平成27年度末を基準に、上記の実績数値を上回ることを目標にしている。 ※なお、ICT基盤を随時整備することから、ただちに、年度間毎の目標数値を設定することは困難であるため、基準実績値の向上を目安としている。 ○総合特区の目標として、継続的な医療・介護サービスが提供できる体制整備を目指すものであるため、現状値の向上としているところである。							
進捗状況に係る自己評価(進捗が遅れている場合は要因分析)及び次年度以降の取組の方向性	概ね計画どおり取組が進捗した。引き続きネットワークの整備拡大ならびに運用面での充実・強化を図っていくこととする。							
外部要因等特記事項								

※寄与度:一つの評価指標に対して複数の数値目標がある場合、それぞれの数値目標が評価指標に与える寄与度を記入してください。

目標達成に向けた実施スケジュール
 特区名:尾道地域医療連携推進特区

年 月	H24												H25												H26												H27												H28														
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3															
全体	●ネットワーク拡大(随時)																																																														
													●モデル実施 ●対象の拡大												●地元独自の取組																																						
事業1	地域医療・介護連携推進事業																																																														
	事業企画・準備												参加施設調整												システム導入												事業実施												効果分析・検証														
事業2	在宅医療等支援モデル事業																																																														
	事業運営・企画												参加対象者選定・調整												システム導入												事業実施												効果分析・検証														
																									●地元独自の取組																																						

注1) 工程表の作成に当たっては、各事業主体間で十分な連携・調整を行った上で提出すること。
 注2) 特に翌年度の工程部分については詳細に記載すること。

■規制の特例措置を活用した事業の実績及び評価

特定(国際戦略/地域活性化)事業の名称	関連する数値目標	事業の実施状況	直接効果 (できる限り数値を用いること)	自己評価	規制所管府省による評価
(特になし)					規制所管府省名: _____ <input type="checkbox"/> 特例措置の効果が認められる <input type="checkbox"/> 特例措置の効果が認められない ⇒ <input type="checkbox"/> 要件の見直しの必要性あり <input type="checkbox"/> その他 <特記事項>

※関連する数値目標の欄には、別紙1の評価指標と数値目標の番号を記載してください。

■国との協議の結果、全国展開された措置を活用した事業の実績及び評価

全国展開された措置の名称	関連する数値目標	事業の実施状況	直接効果 (できる限り数値を用いること)	自己評価	規制所管府省による評価
(特になし)					規制所管府省名: _____ <参考意見>

■国との協議の結果、現時点で実現可能なことが明らかとなった措置による事業の実績及び評価

現時点で実現可能なことが明らかとなった措置の概要	関連する数値目標	事業の実施状況	直接効果 (できる限り数値を用いること)	自己評価	規制所管府省による評価
(特になし)					規制所管府省名: _____ 規制協議の整理番号: _____ <参考意見>

■上記に係る現地調査時指摘事項

[指摘事項]	[左記に対する取組状況等]
--------	---------------

■ 財政・税制・金融支援の活用実績及び自己評価（国の支援措置に係るもの）

財政支援措置の状況						
事業名	関連する数値目標	年度	平成23年	平成24年	累計	自己評価
財政支援①		財政支援要望	142742 (千円)	0 (千円)	142742 (千円)	概ね計画どおり取組が進捗しているものと考えている。 なお、平成27年度末におけるネットワーク参加医療機関数は126施設、同意取得患者数は約12,500人となっているなど、システム利用についても定着してきている。
		国予算(a) (実績)	142742 (千円)	0 (千円)	142742 (千円)	
		自治体予算(b) (実績)	0 (千円)	0 (千円)	0 (千円)	
		総事業費(a+b)	142742 (千円)	0 (千円)	142742 (千円)	

税制支援措置の状況						
事業名	関連する数値目標	年度	平成23年	平成24年	累計	自己評価
税制支援①	(特になし)	件数				

金融支援措置の状況						
事業名	関連する数値目標	年度	平成23年	平成24年	累計	自己評価
金融支援①	数値目標(1)	件数				事業者(急性期病院等)負担の軽減に効果が見込まれていたが、利用には至らなかった。

■ 上記に係る現地調査時指摘事項

[指摘事項]	[左記に対する取組状況等]
--------	---------------

地域独自の取組の状況及び自己評価（地域における財政・税制・金融上の支援措置、規制緩和・強化等、体制強化、関連する民間の取組等）

■財政・税制・金融上の支援措置

財政支援措置の状況				
事業名	関連する数値目標	実績	自己評価	自治体名
ICTを活用した在宅医療等支援モデル事業（遠隔診療・遠隔服薬指導モデル）	—	平成24年度 参加機関数：7機関，参加患者数：84人 平成25年度 参加機関数：17機関，参加患者数：107人	在宅ケアの充実を図るため，単県で措置済。 遠隔服薬管理指導については，患者情報をきちんと管理した上で，テレビ電話による事実関係の確認（きちんと服用できているか，体調に変わりはないか等）を行い，現行法令内で実施したところである。概ね計画どおり取組が進捗しているものと考えている。	広島県
税制支援措置の状況				
事業名	関連する数値目標	実績	自己評価	自治体名
（特になし）				
金融支援措置の状況				
事業名	関連する数値目標	実績	自己評価	自治体名
（特になし）				

■規制緩和・強化等

規制緩和				
取組	関連する数値目標	直接効果（できる限り数値を用いること）	自己評価	自治体名
（特になし）				
規制強化				
取組	関連する数値目標	直接効果（できる限り数値を用いること）	自己評価	自治体名
（特になし）				
その他				
取組	関連する数値目標	直接効果（できる限り数値を用いること）	自己評価	自治体名
（特になし）				

■体制強化、関連する民間の取組等

体制強化	平成22年12月に広島県総務局に総合特区計画プロジェクト・チームを設置。また，庁内関係局との連携推進会議を設置し，特区計画事業の円滑な実施及び事業評価・分析など計画の推進に向け積極的に取り組んだ。			
民間の取組等	尾道市医師会役員，JA尾道総合病院長（当時）等を理事とする特定非営利活動法人「天かける」を設立。（平成23年3月県知事認証）			

■上記に係る現地調査時指摘事項

[指摘事項]	[左記に対する取組状況等]
--------	---------------